高齢者の社会参加と生きがいに関する研究
3．高齢者の社会参加の課題

高間由美子・杉原　利治*

Ⅰ．はじめに

高齢者の社会参加と生きがいに関する一連の研究として、前報[2]では、「高齢者の社会参加の現状と問題点」と題して、高齢者が社会参加をすることで、生きがいを持つことができる条件整備を検討し、高齢者の「力」を活用すべく社会貢献の可能な社会環境を整えることを目的として展開を試みた。その結果、高齢者は学習・社会参加・モノづくりを指導・教授できる指導者としての担い手になり得ることが明らかとなった。しかも、高齢者自らが指導者としての「力」を発揮したいと望んでいることもわかった。高齢者の参加は、参加するだけでなく、自らが指導・教授の契機をつかめれば自己表現から自己実現への移行が可能であることも明らかになった。

このように社会参加の実態を調査したことで、参加の内容、その理由、望ましい参加のあり方が明らかとなり、社会参加の現状と今後の問題点を見出した。高齢者の社会参加が、これからの高齢社会を支える指針になれば高齢者の「生きるかい」になっていくはずである。生きる価値のある人生は、自らが社会貢献のできる「力」として蓄えることとなる。そのための「社会参加」であり、「生きがい」であると考えるからである。

本報では、「生きるかい」が見出せる社会参加となり得るよう、さらに分析を進める。そこで、生活環境からみた活動、社会参加の地域性、地域での活動内容、地域での社会参加者の活用、地域とモノづくりの関わりなどから生涯学習、社会参加活動、モノづくりなどを通して活動の様子を探る。それによって地域への貢献、地域での交流、高齢者との関わり、新たな生きがいにつなげること、などを探る。これらの実態から、具体的な課題を見出せれば今後の社会参加への方策がみつかるだろう。つまり、自己表現から自己実現に向けての社会参加になるべく、提案をする。

Ⅱ．方法

健康な65歳以上の高齢者を対象に、2001年10月から2002年1月にかけ、留置法による質問紙調査を実施した。意識調査の設問は、①家族、地域、仕事、健康、余暇、考え方などの生活基盤、②趣味、特技を含む生涯学習、③ボランティア活動等の社会参加、④モノづくりへの活動など四つの側面から行った。613名（男性262名、女性351名）の有効回答数が得られ、それをデータとして使用した。このアンケート調査を単純集計およびクロス集計をし、分析した。

Ⅲ．結果および考察

1）生涯学習における参加効果

高齢者の生活と生涯学習への関わりをみながら参加効果を探った。「生涯学習への参加活動」は86.1％と非常に高く、男女とも参加が高い結果であった。参加内容では、男性は、「情報関連」、「教養的なもの」、「社会問題」の順で、社会に関わる内容が多く、女性は、「生活に役立つ技能」、「趣味的なもの」、「健康・スポーツ」の順で、生活観のある内容であり、男女の特徴がでた。

そこで、「現在の関心事」と「学習内容」との関わりをみてみる（表1）。これらの関わりには多義にわたり有意差がみられた。関心事の内容では、「健康管理」、「旅行・レジャー」、「教養的なこと」、「ボランティア活動」、「配偶者のこと」、「読書・新聞等」、「情報関連」、「社会情

＊ 岐阜大学教育学部

勢」との関わりが高く、高齢者自身の選択による内容であった。生涯学習を興味ある内容にするには、現在の関心事との関わりが強いほど選択の可能性が高くなることから、主催者は内容を慎重に吟味し、高齢者が選択できるきっかけをつくることが大切であることがわかった。

表1　現在の関心事と学習の参加内容との関わり

関心事＼参加内容	趣味的なもの	教養的なもの	社会問題	情報関連	健康・スポーツ	家庭生活に役立つ技能
おしゃれ	**	−	*	−	**	**
食事	**	−	−	−	**	**
健康管理	**	**	**	**	**	**
スポーツ	**	**	**	**	**	−
旅行・レジャー	**	**	**	*	**	*
趣味的なこと	**	**	−	**	**	**
教養的なこと	**	**	**	**	**	**
ボランティア活動	**	**	**	**	**	**
配偶者のこと	**	**	**	**	**	**
家族のこと	−	−	**	**	**	**
孫のこと	−	*	**	−	−	*
読書・新聞等	**	**	**	**	**	**
テレビ・ラジオ	**	−	**	−	*	−
財産管理	**	**	**	−	**	*
情報関連	**	**	**	**	**	**
社会情勢	**	**	**	**	**	**
住まい	**	*	**	−	**	**

また、学習内容については、「健康・スポーツ」、「趣味的なもの」、「社会問題」、「家庭生活に役立つ技能」など、どの関心事にも関わっていたことが明らかとなった。ただ、「情報関連」との関わりはやや弱い結果となった。次に、生活環境と生涯学習との関わりをみてみる。ここでの生活環境とは、「体を動かすことが好きな人」、「家庭の仕事がある人」、「地域への愛着がある人」の３項目とした。その項目と生涯学習経験との関わりをみた結果、それぞれに有意差がみられた。そのことから、「体を動かすことが好きな人」は、活発で活動的なことから生涯学習への参加も高いことが窺える（表2)。そして、「家庭の仕事がある人」は、家庭での役割がある人で、責任感が強く、家族からも頼りにされていることから、生涯学習の参加には継続性が窺えた（表 3)。「地域への愛着がある人」は、いままでにも地域への密着経験があることから、学習参加との関わりが強く、地域と学習参加の密接な関わりが窺えた（表4)。また、近所の人からの誘いや口コミ、あるいは地域での広報なども効果は高く、期待が持てる。地域と密着することで、学習の参加効果を高めることが明らかとなった。「学習に参加してよかった」と「近所づきあい」の関わりをみてみた。ここでも大きく関わりがあることが窺えた（表5)。それは「新たな友人・仲間ができた」、「知識・教養が身についた」、「自分の身につき役に立った」、「自分の生きがいになった」、「視野が広がった」、「交流ができた」、「体の調子がよくなった」などに有意差がみられたことである。これも、近所づきあいがもたらす学習効果といってよいだろう。しかも、知識・教養が身につき、生きるハリになり、自身の視野が広がり、体の調子もよくなるなど、参加してよかった内容の多くは、学習効果への裏付けともなった。それが近所づきあいを円滑にする要因ともなっていた。また、「近所づきあいをする人」

表2　身体を動かす人と学習経験の関わり

身体を動かす人＼学習経験	ある	ない	計
好き	391	50	443
どちらでもない	123	24	148
嫌い	8	6	14
計	528	82	613

P値：0.0028　　判定：**

表3　家庭の仕事がある人と学習経験の関わり

家庭の仕事＼学習経験	ある	ない	計
いつもする	379	46	427
ときどきする	119	20	139
何もしない	24	15	40
計	528	82	613

P値：0.0000　　判定：**

表4　地域への愛着と学習経験との関わり

地域への愛着＼学習経験	ある	ない	計
ある	426	50	479
少しはある	83	24	107
ほとんどない	10	6	16
計	528	82	613

P値：0.0001　　判定：**

表5　学習に参加してよかったことと近所づきあいとの関わり

参加してよかった内容	近所づきあい
新たな友人	**
知識・教養が身についた	**
身につき役に立った	**
充実した時間	*
意欲が高まる	*
おしゃれになった	*
家族に喜ばれた	−
自分の生きがいになった	**
視野が広がった	**
交流ができた	**
資格取得ができた	−
体の調子がよくなった	**

は90.3%と高く、その理由は、「助けあえる」、「遠くの親戚より近くの他人のような感覚」、「心強い」などの順[2] であったことから、近所づきあいと学習効果は、互いの役割に関連性があり、相乗効果が高いことも明らかになった。

次に、「現在の関心事」と「今後の学習内容」との関わりをみた（表6）。そこから高齢者の思いや考え方、今後の意欲を明らかにする。高齢者の関心事である「健康管理」、「スポーツ」、「旅行・レジャー」、「趣味的なこと」、「教養的なこと」、「社会奉仕・ボランティア活動」、「配偶者のこと」、「家族のこと」、「情報関連」、「社会情勢」は、今後の学習内容との関わりが高い結果となったが、「おしゃれ」、「食事」、「孫のこと」、「読書・新聞」、「テレビ・ラジオ」には関心が低いことがわかった。特に、「社会奉仕・ボランティア活動」、「情報関連」、「社会情勢」に関心が高いことから、高齢者が社会に目を向けていることが窺えた。また、行政の積極的な働きもあり、地域で開かれるパソコン講習会には多くの高齢者が参加していることから、ITで広がる交流の輪も期待できる。情報システムによる地域住民の交流も可能である。「現在の関心事」と「学習内容」（表1）、「現在の関心事」と「今後の学習内容」（表6）を比較したところ、「健康・スポーツ」の項目は、どの関心事にも関わりが高かったが、「趣味的なもの」、「社会問題」、「家庭生活に役立つ技能」は、今後の関わりとして低くなっていくことがわかった。

表6　現在の関心事と今後の学習の参加内容との関わり

学習内容／関心事	趣味的なもの	教養的なもの	社会問題	情報関連	健康・スポーツ	家庭生活に役立つ技能
おしゃれ	**	−	−	−	**	**
食事	−	−	−	−	**	**
健康管理	**	**	**	**	**	*
スポーツ	**	**	**	**	**	**
旅行・レジャー	**	**	**	**	**	**
趣味的なこと	**	**	**	**	**	**
教養的なこと	**	**	**	**	**	**
ボランティア活動	*	**	**	**	**	**
配偶者のこと	**	**	*	**	**	**
家族のこと	*	*	*	*	**	**
孫のこと	−	−	−	**	*	−
読書・新聞等	**	**	**	**	**	−
テレビ・ラジオ	**	−	−	−	**	−
財産管理	−	**	**	*	**	*
情報関連	**	**	**	**	**	**
社会情勢	**	**	**	**	**	*
住まい	−	**	*	−	**	**

以上の結果から、高齢者の社会参加活動では、①関心事に関わる学習内容を選ぶ傾向にある、②生活環境は学習参加に大きく影響を及ぼす、③地域密着型の生涯学習が参加効果をもたらす、④学習の内容は高齢者の興味にあわせ、常に検討していく必要があるなど、本研究で見出された事柄を考慮したい。高齢者の学習内容の選択、学習参加へのきっかけなどは、高齢者の生活環境に大きく左右され、それが参加効果にも影響を及ぼしていることがわかった。よって生涯学習は、高齢者の生活に密着した内容で参加を促すことが参加効果を高める結果となった。また、高齢者の今後の学習内容は、「情報関連」、「健康・スポーツ」との関わりが強かったことから、健康意識が高く、しかも情報化時代を見越した意欲の高さが高齢者の向上心の表れともなり、非常に興味深い結果となった。

これらから、高齢者の生活と生涯学習は密接に関わりがあり、生涯学習における参加効果は「大」であった。なによりも生涯学習は地域への密着型が理想的であり、地域への愛着や近所づきあいがもたらす参加効果の高さが裏付けされた。これは、学習への参加のきっかけもさることながら、近所づきあいを円滑にする誘因ともなる。そのためには、高齢者の生活に密着した「場」、「時間」等を工夫し、地域での参加型で開催することが望ましいことも明らかになった。そして、「関心事と学習参加の有無」、「関心事と社会参加の有無」を比べた結果、社会参加よりも学習参加の方が、関わりが高く有意差がみられた（表7）。また、学習参加経験のない高齢者の多くは、「仕事が忙しい」、「体力に自信がない」、「今のままで充分だ」、「きっかけがつかめない」との理由から、今後は高齢者の体力に合わせた参加方法や参加のしやすい方法などを考えなければならない。たとえば、開催期間の途中からでも受講できる工夫、短期講座や単発講座でも積み重ねられる工夫、また、参加しやすい雰囲気づくり、高齢者の体力や機能に合わせた対応などで参加者を募りたい。一方主催者側は、興味ある内容の選択、魅力ある講師の派遣、開講時期や開催時間の配慮など、工夫や方法を考えたい。高齢者が、「参加してよかっ

た」、「また参加したい」と思えるような生涯学習を目指すには、主催者側の努力はもちろんのことだが、高齢者にとっても参加することは、学習成果のみならず、その意欲や喜びがもたらす効果が必要であり、自身に役立つ。つまり、生涯学習への参加効果は生きがいにつながるのである。

表7　現在の関心事と学習経験及び社会経験の関わり

関心事＼経験の有無	学習参加の有無	社会参加の有無
おしゃれ	**	−
食事	**	−
健康管理	**	**
スポーツ	**	**
旅行・レジャー	**	−
趣味的なこと	**	**
教養的なこと	**	**
ボランティア活動	**	**
配偶者のこと	**	−
家族のこと	**	−
孫のこと	−	**
読書・新聞等	**	−
テレビ・ラジオ	−	−
財産管理	*	−
情報関連	**	**
社会情勢	**	**
住まい	**	−

2）社会参加における地域活動の意味

地域と社会参加経験者との関わりをみてみる。社会参加は56.8%で、女性より男性の方がやや上回った結果[2] であった。一般的に社会参加のきっかけは、「何か人の役に立つことをしたい」という個人の自発的な気持ちや働きが優先するのであるが、実際にはさまざまな思いや考えがある。ここでは社会参加活動のきっかけや、その理由を探ることで参加の意義を見出したい。男女共に社会参加へのきっかけは、人とのふれあいを求める気持ちと、人の役に立つことで生きがいや心の豊かさを求めることにある。それが参加したことへの自分の充実感となる。自分の意志で自分のしたい活動を人との関わりの中で築くことが、新な人とのつながりをつくることである。そのプロセスが楽しみでもあろう。この気持ちを育てる意識が社会参加の重要な点となる。また、社会参加の年齢層は、男性が65歳〜74歳までの参加に対して、女性は65歳〜69歳の参加がもっとも多く、次いで70歳〜74歳というように、年齢が高くなるにつれて減少していく傾向がみられた。

そこで、社会参加における地域活動の意味を探った。まず地域でのサークルと社会参加との関わりをみてみる。「サークルの参加」と「社会参加活動の経験」との関わりでは有意差が強くみられた（表8)。すべてのサークルは、社会参加活動へおよぼす影響も、役割も大きいことが明らかになった。また「学習経験の有無」と「社会参加経験の有無」を比べてみると、学習参加より社会参加活動の方が有意差が強く、関わりが高いことも特徴づけられた。

次に、サークルと学習内容との関わりをみた

表8　サークルと学習経験及び社会経験の関わり

サークル＼経験の有無	学習参加の有無	社会参加の有無
町内会・自治会	**	**
婦人会の団体	*	**
老人会（クラブ）	*	**
趣味のサークル	**	**
健康やスポーツのサークル	**	**
教養や学習のサークル	**	**
退職者の組織	*	**
ボランティア団体	**	**

表9　サークルと学習内容との関わり

サークル＼内容	趣味的なもの	教養的なもの	社会問題	情報関連	健康・スポーツ	家庭生活に役立つ技能
町内会・自治会	**	**	**	**	**	**
婦人会の団体	**	−	*	−	*	**
老人会	−	−	−	−	**	−
趣味のサークル	**	*	−	**	**	**
健康やスポーツのサークル	**	**	**	*	**	**
教養や学習のサークル	**	**	**	**	**	**
退職者の組織	−	**	*	**	−	**
ボランティア団体	**	*	**	**	**	**

(表9)。サークルの「町内会・自治会」、「健康やスポーツのサークル」、「教養や学習のサークル」、「ボランティア団体」は、どの学習内容とも関わりが強く、有意差がみられたが、「婦人会の団体」、「老人会」、「退職者の組織」は、学習内容との関わりが弱かった。その中でも「老人会」は、「健康・スポーツ」での関わり以外には有意差がみられなかったことから、「老人会」は学習との関わりが非常に低いことが明らかになった。加入者の特徴が高齢者だけに「老人会」の活動や内容は、見直す時期にきていると考えられる。いずれにしてもほとんどのサークルと学習内容の多くは関わりが強く、学習の効果は高くあらわれた。また、学習内容の「健康・スポーツ」、「家庭生活に役立つ技能」が、

表10　参加サークルと学習参加をして良かった理由との関わり

学習参加してよかった理由 ＼ 参加サークル	友人・仲間ができた	知識・教養が身についた	身について役に立った	充実した時間が持てた	意欲が高まった	おしゃれになった	家族に喜ばれる	生きがいになった	視野が広がった	交流ができた	資格取得ができた	身体の調子がよくなった
町内会・自治会	**	**	**	**	**	−	−	**	**	**	**	**
婦人会の団体	**	−	*	*	*	*	−	−	**	*	**	**
老人会（クラブ）	−	−	−	−	*	*	−	**	−	**	−	*
趣味のサークル	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	−	**
健康やスポーツのサークル	**	*	*	**	−	**	*	**	**	**	−	**
教養や学習のサークル	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	*
退職者の組織	−	**	−	**	−	*	−	*	−	−	−	−
ボランティア団体	**	**	**	**	**	*	*	**	**	**	**	**

表11　サークルと社会活動内容との関わり

社会参加活動項目 ＼ 参加サークル	伝統的な行事や祭り	防災・災害・救助活動	交通安全活動	社会福祉活動	国際交流に関する活動	資源リサイクル	募金活動	清掃ボランティア	お宮やお寺の奉仕活動
町内会・自治会	**	**	**	**	−	**	**	**	**
婦人会の団体	**	**	−	**	−	**	**	**	−
老人会（クラブ）	**	*	*	−	−	−	−	**	**
趣味のサークル	−	−	−	**	**	**	*	**	−
健康やスポーツのサークル	**	**	**	*	**	**	**	**	*
教養や学習のサークル	−	**	−	**	−	**	*	**	−
退職者の組織	**	**	**	−	−	**	−	**	**
ボランティア団体	**	**	**	**	**	**	**	**	**

どのサークルとも関わりに有意差がみられたことからサークルの活動状況が明らかになった。しかし、サークルでの目的をいま一度見直し、今後の活動につながる内容の充実を図ることが大切であり、今後の課題でもある。「サークル」と「学習参加をしてよかった理由」との関わりをみてみると、有意差がみられた（表10）。特に、「趣味のサークル」、「教養や学習のサークル」、「ボランティア団体」との関わりが強かった。そして、参加してよかった理由からも全般に関わりが強く、「充実した時間が持てた」、「おしゃれになった」、「生きがいになった」、「交流ができた」、「身体の調子がよくなった」などに有意差がみられたことも見逃せない。これらの理由から、サークルで得られた経験が高齢者の生活や生き方に影響をおよぼしていることがわかった。つまり、学習参加は意義深く、しかも、高齢者の活動の輪が広がる誘因にもなり、決して疎かにしてはならない。今後もサークルとの関わりを強化していけば、地域への活動を活発に促すことができる。サークルと社会活動内容との関わりも強く、有意がみられた（表11）。特に、「健康やスポーツのサークル」、「ボランティア団体」は活動した内容のすべてに関わりがあったことからサークルでの社会活動の示す割合が大きいことが窺える。内容は、「防災・災害・救助活動」、「資源リサイクル」、「清掃ボランティア」での関わりが強かった。サークルの参加は地域性もあろうが、どの社会参加活動内容とも関わりが強かったことから、今後の高齢者の社会参加活動への期待がもてそうである。そして、高齢者の「力」の大きさにも改

表12　サークルとモノづくり分野との関わり

手づくりの内容 ＼ 参加サークル	料理	和洋裁	陶芸	園芸	農作物	日曜大工
町内会・自治会	−	−	−	**	−	−
婦人会の団体	**	**	**	**	−	*
老人会（クラブ）	−	−	−	−	**	−
趣味のサークル	**	**	−	**	−	−
健康やスポーツのサークル	**	*	−	*	−	−
教養や学習のサークル	**	*	**	−	−	−
退職者の組織	**	**	−	−	**	**
ボランティア団体	*	−	−	−	*	*

めて驚かされた。ただし、「老人会」、「趣味のサークル」、「教養や学習のサークル」では活動が低く、今後のサークルでの活動内容の検討が必要となった。サークルと得意なモノづくりの内容との関わりをみてみる。「婦人会の団体」のサークルとモノづくりとの関わりは強く、「料理」、「和洋裁」、「陶芸」、「園芸」、「日曜大工」に有意差がみられた（表12）。「退職者の組織」では、「料理」、「和洋裁」、「農作物づくり」、「日曜大工」に関わりがみられた。「趣味のサークル」、「健康やスポーツのサークル」、「教養や学習のサークル」、「ボランティア団体」では、やや弱く有意差がみられた。それ以外の「町内会・自治会」は「園芸」との関わり、「老人会」は「農作物づくり」との関わりにしか有意差がみられなかった。一方、モノづくりの内容では「料理」、「和洋裁」がサークルとの関わりが強く、有意差がみられた。これらから、サークルとモノづくりとの関わりは強く、その関わりに特徴がみられた。モノづくりに関わっているサークルでは、さまざまな分野を積極的に取り入れ活動しているが、残念なことにそういったサークルは数少ないことも明らかになってい

表13　近所づきいあいと社会参加の有無との関わり

近所づきあい＼参加してよかった	あ る	な い	計
している	152	184	336
一応はしている	55	105	160
あまりしていない	9	44	53

P値 0.0001
判定 **

近所づきあい＼また参加したい	あ る	な い	計
している	48	288	336
一応はしている	9	151	160
あまりしていない	2	51	53

P値 0.0033
判定 **

表14　近所づきあいと社会活動内容との関わり

近所づきあい＼きっかけ	伝統的な行事や祭り	防災・災害・救助活動	交通安全活動	社会福祉活動	国際交流に関する活動	資源リサイクル	募金活動	清掃ボランティア	お宮やお寺の奉仕活動
している									
一応はしている	**	**	*	*	−	**	−	**	**
あまりしていない									

表15　近所づきあいと社会活動のきっかけとの関わり

近所づきあい＼きっかけ	家族や知人に勧められて	広告・チラシを見て	自分を豊かにするから	生きがいづくりのため	特技を生かせるから	自分の健康維持のため	人の役に立ちたいから	地域の人の参加をみて	外出ができるから	暇だから	多くの人と交流ができるから	海外では当たり前だから	なんとなく
している													
一応はしている	−	−	**	**	**	**	**	*	−	−	**	−	−
あまりしていない													

表16　近所づきあいと今後の社会参加内容との関わり

近所づきあい＼今後の内容	伝統的な行事や祭り	防災・災害・救助活動	交通安全活動	社会福祉活動	国際交流に関する活動	資源リサイクル	募金活動	清掃・ボランティア	お宮やお寺の奉仕活動
している									
一応はしている	**	*	−	**	−	**	−	*	**
あまりしていない									

る。「料理」、「和洋裁」は、どのサークルとも関わりが高かったことから女性が中心のサークルであることがうかがえた。

「地域の近所づきあい」と「社会参加の有無」との関わりをみてみる。社会参加については、「参加してよかった」、「また参加したい」に有意差がみられた（表13)。近所づきあいと社会参加との関わりが強く、参加活動のきっかけともなる結果であった。近所づきあいと社会活動の内容との関わりでは、「伝統的な行事や祭り」、「防災・災害・救助活動」、「交通安全活動」、「資源リサイクル」、「清掃ボランティア」、「お宮やお寺の奉仕活動」などに地域との関わりが強く、有意であった（表14)。これらは、昔からの伝統であり、疎かにできないものとして教えられてきたことのあらわれでもあろう。神社の氏子としての地域の活動があり、近所で助けあう精神が培われ、身近なこととして受けとめられてきた証でもある。その点からいえば、「国際交流に関わる活動」、「募金活動」は、必ずしも身近な出来事でもなく、ましてや近所づきあいとの関わりも無縁なことから関わりが弱かったと考えられる。近所づきあいと社会活動のきっかけとの関わりでは、「自分を豊かにする」、「生きがいづくり」、「特技を生かせる」、「自分の健康維持のため」、「人の役に立ちたい」、「地域の人の参加をみて」、「多くの人と交流ができる」に有意差がみられた（表15)。自分のため、人のため、交流のためなど自ら進んで参加をしていることが窺える。それ以外の「家族や知人に勧められて」、「広報・チラシをみて」、「外出ができるから」、「暇があるから」、「海外では当たり前だから」、「なんとなく」といった理由には目的意識との関わりがなく有意差がみられなかったのだろう。このように参加のきっかけは、近所づきあいと相俟って、地域の活性化や高齢者自身の生きがいづくりにも効果が高いことが明らかになった。そこで、今後の社会参加の内容から高齢者の今後の活動範囲を探ってみる。「近所づきあい」と「今後の社会参加内容」との関わりは、「伝統的な行事や祭り」、「防災・災害・救助活動」、「社会福祉活動」、「資源リサイクル」、「お宮やお寺の奉仕活動」に有意差がみられた。そこで、いままでの社会参加内容

(表14) と、今後の社会参加内容 (表16) を比べてみると、「社会福祉活動」が新しく領域に加わり、「交通安全活動」、「清掃ボランティア」が活動領域から削られたことは社会環境の変化として受けとめなければならない結果となった。これは高齢者の活動領域が、自分のための

表17　近所づきいあいと社会参加の有無との関わり

社会参加の継続意志 ＼ 近所づきあい	5年ぐらい		計
	は　い	いいえ	
している	32	304	336
一応はしている	9	151	160
あまりしていない	0	53	53

P値 0.0285
判定 ＊

社会参加の継続意志 ＼ 近所づきあい	元気ならいつまでも		計
	は　い	いいえ	
している	129	207	336
一応はしている	36	124	160
あまりしていない	6	47	53

P値 0.0000
判定 ＊＊

社会参加であり、本当に活動したい内容を選ぶ傾向にあることである、しかも付き合いで選ぶ活動でないことがわかる。つまり、自分のために、目的意識をもった活動を望んでいることが窺える。さらに高齢者は「元気ならいつまでも」との思いで社会参加を継続していく意志があったことは、これからの高齢社会での高齢者の「力」に期待が持てそうである (表17)。

これらの結果から、地域活動の意味を明らかにする。①サークルでの社会参加は学習参加より活動経験が豊富であった。②サークルと学習内容との関わりから「婦人会の団体」、「老人会」、「退職者の組織」での活動内容を促せば、学習参加者が増える見込みがある。③サークルでの学習参加は、高齢者の生活向上や生きがいづくりのきっかけともなり、参加活動の意義が見出された。④どのサークルも学習への興味は高かったが、「老人会」での活動は希薄であったことから、「老人会」の今後のあり方が問われる。⑤サークルでの学習効果は高かったが、活動するサークルへの参加が少ない「老人会」や「退職者の組織」での維持が難しい。⑥サークルの特徴をだすには、各サークルにふさわしい活動内容を検討する必要がある。⑦多数のサークルのなかでも「婦人会」でのモノづくりが最も高い結果になった。⑧サークルでのモノづくりを促すことが地域の活動を活発にさせる。特に、「婦人会」、「老人会」、「趣味のサークル」、「ボランティア団体」等の活動は、これらの期待が持てる。⑨近所づきあいと社会参加との関わりは強く、地域に密着した活動内容の動機づけとなる。⑩地域での参加のきっかけは、地域の活性化や高齢者自身の生きがいづくりに効果が上がっていた。⑪高齢者が地域で活動する場合は、自分のためであり、目的意識をもった参加活動になっていた。⑫地域での高齢者の社会参加には継続意志がみられた。以上、地域でのサークルは高齢者の参加が多くみられ、社会参加を促すには効果が高い結果となった。また、高齢者も自らの意志で参加していることから、今後の継続にも期待が持てることが明きらかになった。

3）モノづくりによる指導意識の形成

(1)　モノづくりと指導意識の関わり

「モノづくりが好きか」との設問[2] では「好き」56.1%、「嫌い」7.0%と、好きな高齢者の比率が高く、男女比では男性の41.8%に比べ、女性は73.9%と圧倒的に高く、女性のモノづくり志向が高かった。女性は、和洋裁等、園芸、料理を好むことが明らかとなったことから、趣味、あたたかみ、生きがいを理由としたモノづくりに支えられていることがわかった。地域への愛着とモノづくり志向との関わりには、有意差がみられた (表18)。地域への愛着のある人

表18　地域への愛着とモノづくり志向との関わり

モノづくり ＼ 地域への愛着	好　き	どちらでもない	嫌　い
	人数　(%)	人数　(%)	人数　(%)
ある	274　(79.7)	140　(76.9)	24　(55.8)
少しはある	56　(16.3)	32　(17.6)	16　(37.2)
ほとんどない	8　(2.3)	5　(2.7)	3　(7.0)
計	344　(100.0)	182　(100.0)	43　(100.0)

P値　0.0112　　判定　＊

表19　サークルとモノづくり分野との関わり

モノづくりの内容 ＼ サークル	料　理	和洋裁	陶　芸	園芸・ガーディニング	農作物づくり	日曜大工
町内会・自治会	－	－	－	＊＊	－	－
婦人会の団体	＊＊	＊＊	＊＊	＊＊	－	＊
老人会	－	－	－	－	＊＊	－
趣味のサークル	＊＊	＊＊	－	＊＊	－	－
健康やスポーツのサークル	＊＊	＊	－	＊	－	－
教養や学習のサークル	＊＊	＊	＊＊	－	－	－
退職者の組織	＊＊	＊＊	－	－	＊＊	＊＊
ボランティア団体	＊	－	－	－	＊	＊

は、モノづくりが好きな人であったことからも、地域でのモノづくりへの活用が見出せる結果になった。サークルとモノづくり分野との関わりでは、「婦人会の団体」に強く有意差がみられた（表19)。モノづくり分野では、「料理」、「和洋裁・編物・手芸」に有意差がみられた。これらから、地域のサークルとモノづくりの分野では関わりが弱く、期待が持てないことがわかった。しかし、特定のサークルで特定のモノづくりには関わりがみられたので、活動内容を検討することで今後の参加につなげたい。「近所づきあい」と「モノづくりへの指導意志」との関わりに有意差がみられた（表20)。これは近所づきあいが指導意志のきっかけにもなることを示唆している。「近所づきあいをする理由」と「モノづくりを教える意志」との関わりでは、「助けあえる」、「心強い」、「遠くの親戚より近くの他人のような感覚」に、教えたい意志との関わりがみられたことから、高齢者は自らの力を地域で活動することを望んでいることが明らかになった（表21)。

表20　近所づきあいモノづくりへの指導意志との関わり

近所づきあい ＼ 指導意志	はい 人数 (%)	いいえ 人数 (%)
している	80 (34.3)	167 (55.5)
一応している	153 (65.7)	134 (44.5)
あまりしていない	233 (100.0)	301 (100.0)

P値 0.0000

判定 ＊＊

表21　近所づきあいの理由とモノづくりへの指導意志との関わり

理由 ＼ 指導意志	教えたい
暇がある	－
助けあえる	＊＊
心強い	＊＊
遠くの親戚より	＊＊
近所の手前	－

表22　モノづくりの内容と学習参加内容との関わり

学習参加内容 ＼ モノづくりの内容	料理	和洋裁	陶芸	園芸・ガーディニング	農作物づくり	日曜大工
趣味的なもの	＊＊	＊	－	－	＊	－
教養的なもの	－	－	－	－	－	－
社会問題	＊＊	－	－	－	－	＊
情報関連	＊	＊＊	＊＊	＊	－	＊
健康・スポーツ	＊＊	－	＊	＊	－	＊
家庭に役立つ技能	＊＊	＊＊	＊＊	＊	－	＊＊

表23　学習に参加してよかった理由とモノづくり内容との関わり

よかった理由 ＼ モノづくりの内容	料理	和洋裁	陶芸	園芸・ガーディニング	農作物づくり	日曜大工
友人・仲間ができた	＊＊	＊＊	－	＊	－	－
知識・教養が身についた	＊＊	－	＊＊	＊＊	－	＊
身につき役に立った	＊＊	＊＊	＊	＊＊	－	－
楽しく充実した時間	＊＊	＊＊	＊	＊＊	－	－
意欲が高まった	＊＊	＊＊	－	＊＊	－	－
おしゃれになった	＊＊	＊＊	－	＊＊	－	－
家族に喜ばれた	＊＊	＊＊	－	＊	－	－
自分の生きがいになった	＊＊	＊＊	＊＊	＊＊	－	－
視野が広がった	＊	＊＊	＊	＊＊	－	－
人との交流ができた	＊＊	＊	－	＊＊	－	－
資格取得ができた	＊＊	＊＊	＊	－	－	－
身体の調子がよくなった	＊	＊	＊	＊＊	－	－

「モノづくり内容」と「学習参加内容」との関わりに有意差がみられたことから、モノづくりの好きな人は学習意欲も盛んであると考えられる（表22)。学習に参加することは、モノづくりに関わる知識や内容が豊富に学習でき、、モノづくりの参考にもなる有効な手段である。学習内容とモノづくり分野との関わりでは、学習内容の「情報関連」、「家庭に役立つ技能」、「健康・スポーツ」に有意差がみられた。モノづくりの内容の関わりでは、「料理」がもっとも強く、続いて「日曜大工」であった。情報、技能、健康、の内容が、料理、和洋裁、陶芸、園芸、日曜大工に関わりがみられたことから、学習とモノづくりの関連性が明らかになった。学習に参加してよかった理由と得意なモノづくり内容との関わりでは、理由の項目の「知識・教養が身についた」、「自分の身につき役に立った」、「楽しく充実した時間が持てた」、「自分の生きがいになった」、「視野が広がった」、「身体の調子がよくなった」などに有意差がみられた。モノづくりの内容では、「料理」、「和洋裁・編物・手芸」、「園芸」に強い有意差がみられた(表23)。これらは、ことのほか関わりが高く、今後のモノづくりに期待が持てた。しかも高齢者の興味対象をもわかった。これからのモノづくりを高齢者の「力」として、活かせる結果となった。

このような高い効果が得られたことから、高齢者が好きなモノづくりを活用する方法はないものか、あるいは自分が得意とするモノづくりの成果を活かせないものだろうか。そこで「教える」という指導についてみてみる。まず、「教えたい」43.6％（男性42.4％、女性44.5％)、「教えたくない」が56.4％であった。モノづくりの好きな高齢者（男性が41.8％・女性73.9％）でも、「教える」ことになるとずいぶん低くなることがわかった。ただし、男性はモノづ

くりが、好きの41.8%に対し、「教えたい」の回答は95.0%にも達した。それに対して、女性はモノづくりが好きとの回答が高かったにもかかわらず、57.0%の指導意識しかもっていないことが明らかとなった。これは、モノづくりが好きな男性は少なかったものの「教えたい」との意識は高く、逆に、モノづくりが好きな女性は多かったにもかかわらず「教えたい」との意識は低い傾向にあった。男性は他者に自分の力を活用する意識は高いが、女性は自分の力を他者に活用する意識が低いことが明らかになった結果でもある。その理由を探るために、「教えたくない」理由をたずねたところ、「未熟だから」、「年だから」が最も多く、女性の教えたくない原因がつかめた。

これらの結果から、①地域への愛着がモノづくりを通して指導意識を形成できることがわかった。②「婦人会」のサークルではモノづくりが可能である。③高齢者は自らの力を地域で活用することが大切と思っている。④学習参加内容では「家庭に役立つ技能」がもっとも多く、モノづくりの内容では「料理」がもっとも高かった。⑤学習とモノづくりの関わりが高いことから、今後のモノづくりに高齢者の「力」が期待できる結果となった。⑥指導意識では、男性のモノづくり志向が低かったにもかかわらず指導意識が高く、女性はモノづくり志向が高かったわりには指導意識が低い結果となった。⑦女性の指導意識の低さの理由は引っ込み思案からであった。これらから高齢者のモノづくりへの取り組みは指導が可能であることがわかった。しかし、女性のモノづくりは、地域で活躍したり社会に還元するにはなかなか困難であるということも明きらかになった。つまり、せっかくのモノづくりの成果を活かす手段として、指導意識を高めたくても、その意志が低い結果となったことである。そこで指導意識を高めるために、活用しやすい環境を探り、高齢者の指導意識の形成を確立したい。

(2) 指導意識の形成

高齢者の指導意識の形成を確立するために、モノづくりとの関わりに焦点をあてた。「モノづくり志向」と「モノづくり分野」との関わりでは、「料理」、「和洋裁」、「陶芸」、「園芸」、「農作物づくり」、「日曜大工」の分野に関わりが強いことから、モノづくりの好きな高齢者はどの分野とも関わりがあることが明らかになった(表24)。「モノづくり分野」と「モノづくりのよい理由」との関わりにも強く有意差があらわれた。特に、「料理」、「和洋裁・編物・手芸」に対して、「趣味だから」、「生きがいだから」、「個性的だから」、「手づくりが好きだから」の理由に関わりがみられた(表25)。また、「モノづくりの内容」と「指導意志」との関わりは、得意なことは教えたいとの意志表示が明らかになったことから、高齢者の指導意志につながる結果となった(表26)。モノづくりを教えたい人の内容は、「料理」、「和洋裁」、「陶芸」、「園芸」、「農作物づくり」、「日曜大工」で、どのモノづくりにも指導意志がみられた。「指導意志」と「学習内容」との関わりからも有意差がみられ(表27)、教えたい内容は、「教養的なもの」、

表24 手づくりの志向とモノづくり内容との関わり

志向＼モノづくりの内容	料理	和洋裁	陶芸	園芸・ガーディニング	農作物づくり	日曜大工
好き	**	**	**	**	**	*
どちらでもない						
嫌い						

表25 モノづくり内容とモノづくりのよい理由との関わり

項目＼理由	経済的なから	趣味だから	生きがいだから	個性的だから	あたたかみがあるから	手づくりが好き	安全性が高いから
料理	**	**	−	**	**	**	**
和洋裁	**	**	*	**	**	**	−
陶芸	−	**	**	**	−	**	−
園芸	−	**	**	*	**	−	−
農作物	−	**	**	−	−	*	**
日曜大工	−	**	−	**	−	**	*

表26 モノづくりの内容と指導意志との関わり

指導意志＼モノづくりの内容	料理	和洋裁・編物・手芸	陶芸	園芸・ガーディニング	農作物づくり	日曜大工
モノづくりを教えたい	**	**	**	**	**	**

表27 指導意志と学習内容との関わり

指導意志＼学習内容	趣味的なもの	教養的なもの	社会問題	情報関連	健康・スポーツ	家庭生活に役立つ技能
モノづくりを教えたい	−	**	**	**	**	**

表28 モノづくりの理由と指導意志との関わり

指導意志＼理由	経済的だから	趣味だから	生きがいだから	個性的だから	あたたかみがある	手づくりが好き	安全性が高い
モノづくりを教えたい	**	**	**	**	**	**	**

表29　指導意志と指導対象者との関わり

指導意志＼指導対象者	乳幼児	小学生	中・高・大生	大学生以上の若者	中高年	老　年	施設入居者	子育て中の人	全ての年代
モノづくりを教えたい	**	**	**	**	**	**	**	**	**

表30　モノづくり分野と指導対象者との関わり

項目＼対象者	乳幼児	小学生	中・高・大生	大学生以上の若者	中高年	老　年	施設入居者	子育て中の人	全ての年代
料　理	**	**	−	**	**	−	*	**	**
和洋裁	−	−	−	*	−	−	**	**	*
陶　芸	−	*	−	−	**	**	**	−	−
園　芸	*	*	−	−	**	−	**	**	**
農作物	−	−	*	*	−	**	−	−	**
口曜大工	−	**	**	**	*	−	−	−	**

「社会問題」、「情報関連」、「健康・スポーツ」、「家庭に役立つ技能」であった。そして、「モノづくりをする理由」と「指導意志」の関わりにも、強く有意差がみられた（表28)。教えたい人の理由は、「経済的だから」、「趣味だから」、「生きがいだから」、「個性的だから」、「あたたかみがあるから」、「とにかく手づくりが好きだから」、「安全性が高いから」と、モノづくりの長所をすでに理解しきっていることがわかった。しかも、教えたいとの意志がはっきりしている。モノづくりを教えたいと思っている人は、モノづくりに関わるすべてに理解を示していたことが察せられた。これはモノづくりそのものに愛着を持っており、モノづくりの良さ、モノづくりへの思いが強く、それが愛着となって表れた結果と受けとめる。高齢者はモノづくり志向への愛着が高いだけに、指導意識も高い結果となった。また、指導への自信がない人も、まず自らがモノづくりに取り組むことでモノづくりに関わることができると考える。たとえ指導でなくても一緒に取り組むだけで、すでにモノづくりが始まっていると考えれば、指導との関わりも自然の成り行きとしてできてくるであろう。

生涯学習とは、学習する人が、「いつまでも（学習期間)」、「どこででも（学習場所、学習形態)」、「何でも（学習内容)」をモットーに学ぶということが重要である。そして、自らの学習から培った成果を社会が受け入れ、その成果を位置づける役割も大切である。すべての人の、すべての学習を正しく評価して、すべての人が自らの学習成果を社会に活用・貢献することができれば、高齢社会への貢献度は高くなる。これと同様に、高齢者のモノづくりも考えていきたい。つまり、自分が習得した知識や技術を作品を通して表現するのみならず、それを他の人や社会で教えることが、「表現」であり、「成果」となって、「自己実現」にもなる。「発表する」、「展示する」という活動は自ら学んだことや、あるいは完成した作品を他者に伝える行為でもあり、それが「教える」活動の始まりでもある。モノづくりは、教えたり、教えられたりすることが上達する指導方法の最短距離でもある。

次に、指導意志が高かったことから、高齢者の教えたい対象者をみてみる。「教えたい」と思っている人の中で、教えたい対象者を男女比でみてみる。男性は、「すべての年代」、「小学生」、「中高生」、「老年」の順であり、女性は、「すべての年代」、「施設入居者」、「小学生」、「中高年」、「老年」の順であった。そして、「指導意志」と「指導対象者」の関わりでは、すべての対象者に有意差がみられたことから、高齢者はどの対象者にも指導意志があることが明らかとなった（表29)。「モノづくり分野」と「指導対象者」との関わりには弱いが有意差がみられた。モノづくり分野では、「料理」、「園芸」に関わりがみられ、対象者では「すべての年代」、「中高年」、「施設入居者」、「小学生」、「大学生以上の若者」の順に関わりがみられた（表30)。

これらの結果から、①モノづくりの好きな高齢者は、どの分野においても得意であった。②モノづくりの得意な高齢者はどの分野でも教えたいとの意志表示がはっきりしていて、指導意識が高かった。③モノづくりを教えたい高齢者は、モノづくり全般に指導意志が高かった。④

高齢者の指導対象者には、「すべての年代」に教えたいとの意識が高かった。⑤高齢者の教えたい対象者は、「孫のような感覚の小学生」、「自分の年代に近い人」を順に希望が高かった。などが明らかになった。

これらから高齢者の指導対象者は、「すべての年代」に続き、「小学生」、その次に自分の年代に近い人々を対象に選ぶ傾向がみられ、今後は、若者にも積極的に指導意識を高める工夫が必要である。高齢者の得意なモノづくりを自己満足に終わらせることなく、教えることで自分自身の学習不足を補う学習にもなることを認識しつつ、指導意識を高める努力をして欲しい。自らの「力」をさらに高めることが、指導力をアップさせることであり、それが自分自身の成果を高める効果でもあると考える。よって自己表現にとどまることなく、自己実現へ移行することが学習成果であると心得たい。それが高齢者の社会貢献にもなるからである。

Ⅳ. おわりに

高齢者の意識調査から、高齢者の生涯学習、社会参加、モノづくりは充分に社会参加活動の「力」になることがわかった。特に地域での活動には成果が高いことが明らかになった。また、高齢者は指導者になってもいいと考えていることもわかった。そこで次は、若者を対象に意識調査を行い、若者と高齢者の関わりから高齢者の社会参加を検討する。高齢者の「力」を活用できる「場」が必要であり、そのための環境整備をしなければならないからである。高齢者のモノづくりを活かす対象に、あるいは頼られていると感じる相手として、若者がどこまでそれを受け入れる意識があるのかを探ることで、高齢者に対する思いや考え方を見出していく。高齢者と若者の交流が多いほど、世代を超えた助け合いができるはずである。それが今後の高齢社会を大きく変える指針になれば、高齢者の「生きるかい」が高まってくると考える。「生きがい」とは何かと問われた時、趣味の延長上に成果があるのではなく、成果を人に役立てることで価値が見出されるのである。「趣味の世界」は、あくまでも「趣味の世界」であり、本来の「生きがい」と勘違いしてはならない。また、自己表現をするならば、他人や社会に役立つ生き方をすることが、ほんとうの自分らしさを生かすのであって、自己満足で終わってはならない。自分が自分らしく、人のために役立つ自分を発見できれば、それが自己実現となる。そのための共生社会になることが望ましく、また必要でもあると考える。

参考文献

1) 高間由美子他：高齢者の社会参加と生きがいに関する研究　1．高齢者の社会参加の意義、東海女子短期大学紀要28号、p31～38、2002年。
2) 高間由美子他：高齢者の社会参加と生きがいに関する研究　2．高齢者の社会参加の現状と問題点、東海女子短期大学紀要29号、p35～44、2003年。

― 児童教育学科　初等教育 ―